

「下関港港湾脱炭素化推進計画（案）」に対するパブリックコメントの実施結果

1. 実施期間

令和7年4月9日（水）から令和7年5月8日（木）まで

2. 意見応募状況

意見応募者数：2名 意見件数：3件

3. 意見の要旨と市の考え等

【意見反映区分】

A：意見を踏まえて施策を補足修正、または追加した	…1件
B：軽微な文言修正を行った	…0件
C：施策の文言修正、追加を行わなかった	…0件
D：施策実施にあたって考慮すべき事柄として参考とした	…2件
E：パブリックコメントの対象外の意見として扱った	…0件
F：公表しない意見	…0件

番号	該当箇所 (頁)	意見要旨	市の考え又は対応	意見反映区 分
1	p5	関門海峡の潮流を活用した発電を開発してほしい。 関門海峡の潮流エネルギーの凄さは誰もが実感しており、これを活用しないのはもったいない。しかしながら、技術開発はすぐには困難であることも承知している。 まずは、関門海峡の潮流エネルギーを活用することで、潮流発電の先駆けとなり、脱炭素推進を下関から世界中に発信してほしい。	太陽光やバイオマス以外の潮流等の再生可能エネルギーについても、技術開発の動向を注視し、導入可能な段階になりましたら活用を検討して参ります。 このため、表13「港湾における脱炭素化の促進に資する将来の構想」中の表現を「再エネ施設の活用・導入拡大（太陽光発電システム・バイオマス発電所等）」とします（下線部追記）。	A
2	p10	港湾区域内及び臨港地区内における工事用船舶、車両等への脱炭素化に向けた働きかけも必要と考える。	荷役機械のみならず、工事用船舶車両等による脱炭素燃料への転換はCO2排出量削減に向けて必要な取り組みと考えています。頂きましたご意見を参考に、作業船をはじめとした工事用船舶や車両への働きかけに留意していきたいと思えます。	D
3	全般	山口県内の主要港（徳山下松港、宇部港、小野田港）及び北九州港との施策連携も考慮すべきと考える。	現時点では脱炭素化に向けた取組は各港において行うこととしていますが、広域的な取り組みが必要となれば連携することも考えてまいります。	D